



八高の役割とこれから

多様な個性を育てるカリキュラムを

昨年10月に「八高普通科の学級減と教員削減」が報じられて3ヵ月が経ちました。この決定がこれからの八丈高校や八丈町に及ぼす影響は少なくないと思われます。そこで、東京都教育委員会の決定にいたるまでの経緯と、その間の八高と町の対応について整理してみました。まず、その直接的な影響はどのようなことが考えられるかというと・・・



- 影響は大きい**
- ①八高では、学力の差が大きい生徒に対し、習熟度別学習や多様な選択科目を用意し、個別指導を含めたきめ細かな指導を行ってきたが、それが困難となり、教育の質の低下が懸念される。
 - ②就職、進学（専門学校、短大、大学）と多様な進路希望に対して十分な指導と対応ができず、生徒や保護者の期待に応えられなくなる。
 - ③部活動で遠征する際、引率する教員の負担が増し活発な部活動が制限される。

八高の動き 八高では、教職員組合が教員削減の中止を求める署名活動を始めました。要望のポイントは、学級減による教員の負担増と特別支援学級（小中学校にはある）の体制が整っていないことによる教員の負担増の改善を求めるものです。教員、保護者、各労組などから1500筆を超える署名が集まり、今月中には都教委（教育庁）に提出するとのことでした。

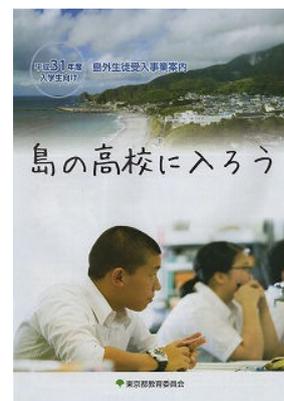
町議会の動き 一方、八丈町議会では昨年12月議会で「都立八丈高校全日制の学級減と教員削減の中止を求める意見書」を賛成多数で議決し、東京都教育委員会に提出しました。都教委の決定は、単に八高の教育の問題にとどまらず、人口減少や経済活動の衰退につながりかねない町の将来にかかわる問題だと考えたからです。



決定はいつから そもそも都教委の方針が、いつ八高に伝えられたのでしょうか。校長にうかがったところ、すでに5年前には八高と町の教育長に伝えられていたとのことでした。それを受けて八高は、都の方針をひるがえすための対策に乗り出しました。それが、町と連携した離島留学制度や八高魅力化プロジェクトであり、さらに定時制の生徒を島に呼び取り組みでした。

前ページより続く

都も町も民間も努力 都教委と町と民間が協力して進めている離島留学制度は、島外生徒の受け入れを続けて3年目になります。産学官民連携して各分野の若手講師による授業を行う八高魅力化プロジェクトも2年前から進められてきました。八高の定時制には、現在島外からの生徒6人が在籍し、島のスーパーなどで働きながら夜は八高で学んでいます。さらに、民間の取り組みではありますが、八高生がハワイへ5日間の研修留学するプロジェクトが4年目を迎えます。留学後の生徒の英語力やプレゼン力の向上を見ると、この事業の成果を実感します。



これからどうすれば… こうした努力にもかかわらず、都教委の方針は変わりませんでした。では町はこれから何をすべきなのでしょう。募集定員120人を大きく下回る状態がずっと続いていただけですから、学級減はある意味やむを得ないと思います。しかし、八高のこれまで果たしてきた役割をみると、単純に数の問題で解決すべきことではないことがわかります。今八高と八丈町に求められるものが何かと考えた時、私は生徒の個性に応じた多様なカリキュラムとそれを支える教職員の確保だと思っています。



今年の産業祭に出品された八高のラン

園芸家政科は設備だけでなく教員も充実していて、島の環境を生かした特色ある教育で、将来の町の産業を支える人材を育てる役割を果たしています。

また、特別支援学級も必要とされています。小中学校に整備されている支援学級が今は八高にはありません。小学校にはひまわり・たんぼぼ教室が、中学校には桃・桜組があって特別な支援が必要な児童・生徒が学んでいます。しかし、その生徒が卒業すると、都立八王子特別支援学校に入り、近くの盲学校の寮から通うこととなります。しかも、「隔週末帰宅」の規則があり、保護者は帰宅のたびに生徒の送迎のため、島から2往復しなければなりません。これが月2回です。時間的経済的な負担は大きすぎます（1月20日朝日新聞記事より）。

島に受け入れる施設を 以前、教員や保護者など地域の努力によって、支援が必要な生徒の学習の場（I組）が実現しましたが、しばらく希望者がいなかったためか休止状態になっています。しかし、現在も都内の特別支援学級に通学している島の生徒がいて、今後も対象となる生徒がいることを考えると、八高に学習の場を整備すべきではないでしょうか。都教委は旅費の補助を強化することで、都内の支援学級に通学する生徒と保護者の負担を軽減する策を考えているようですが、やはり島に学習の場を確保して、心身ともに不安定な時期を家族とともに過ごせる環境を整え、同時に経済的負担を取り除くことの方が重要だと思います。

八高の役割 都内の都立高校はそれぞれの特色を活かした校風をアピールし、生徒も個性と能力にあった高校を選択できます。しかし、離島では幅の広い学力差と多様な進路希望に対応することが求められます。指導にあたる教員もそれに対応できる人材が必要となるはずで、教育の機会均等の立場からすれば離島だけが選択をせざるを得るのは不公平です。八丈島の最高学府である八高には、多様な生徒を受け入れて、豊かな学力を身につけた個性あふれる人間を育てる役割を担ってほしいと思います。



2018年12月議会 一般質問



1. 都立八丈高校の学級減に対する町の対応は

平成31年度における八丈高校の募集人員の縮小と学級減の報道に驚いた。今年度の全日制普通科の入学者数が増加したことや離島留学事業など様々な取り組みを実践しているため、今回の東京都の対応には納得がいかない。

(1) 今回の発表にいたる経過はどのようなものか。

町 例年行われている都の教育委員会において、八丈高校の入学者数が恒常的に募集人員の半数以下であり、今後の中学生数を考慮すると2学級が適正と考えて決定したとの報告を受けた。

(2) 都に対して町がとれる対策はあるか。

町 都の決定については、町が申し立てる立場にない。ただ、教員減があれば、学力別の個別指導や進路指導に影響があるので、町として要望していく。

(3) 八丈高校に進学する生徒を確保するための町の対策は。

町 小中校の連絡協議会で連携し、夏季講習の出張やイベントのサポートなどを行い、八高への受験意欲の高揚に努めている。

再質問 八高の進学実績の詳細を説明するほか、卒業生が活躍している実態を直に中学生や保護者に話してもらおう機会をつくるべきではないか。

町 前向きに検討していく。



2. 島内の宿泊施設の施設整備に町の支援を

今、インバウンド、障がい者、高齢者など様々な観光客が島を訪れている。施設整備が充実したところと未整備のところがあり、全体として底上げが必要だ。トイレの洋式化やバリアフリー化は、観光地としての質を高めるためにも大切で、町が整備費を補助するしくみをつくるべきだ。

(1) 宿泊施設のそれぞれの整備状況を把握しているか。

町 個々の施設の整備状況は把握していない。今後調査を実施する。

(2) トイレの洋式化やバリアフリー化が未整備の施設については、整備費の一部を補助できないか。

町 トイレの洋式化とバリアフリー化については、数年前から東京都と観光財団が補助事業を実施している。観光協会を通じて紹介しているので活用していただきたい。

再質問 東京都などの補助の仕組みを紹介するのは当然だが、いずれも締め切りがある。対象となる施設に個々に紹介すべきではないか。また、申請は手続きが煩雑なので町がお手伝いすることも必要ではないか。

町 今年度の事業については締め切りがあるが、これらの事業は継続して実施されるものと考えている。申請の手続きについては、町に来ていただければお手伝いさせていただく。



三根公民館のトイレ

12月議会の一般質疑 私の発言から

◆**観光協会のトイレ** 6月議会で、宇喜多秀家墓の前の駐車場にトイレを設置する要望が複数の議員からだされた。町は、近くに観光協会があり、早急に洋式に替えるのでここを使ってほしいと答弁したが、まだできていないが。また、トイレそのものが狭いのでこの際、大規模な改修が必要ではないか。

町 今、女子トイレの改修に取り掛かっているところだ。とりあえず、これを使っていただき、今後は旧役場周辺の都道改修工事があるので、その時に大規模になおせると考えている。

◆**給食センターの炊飯釜の故障** 10月に炊飯釜が故障し、当面鍋で炊飯していると聞くと献立に影響はないのか。機械の交換はいつできるのか。冬休みにできるのか。保護者への説明は。

町 給食の献立に支障がないように工夫し、保護者への説明も学校を通して行っている。炊飯釜の取り換えは、冬季は無理なので、春休みになると思う。



◆**介護職員初任者研修** 29年度は初任者研修を養和会に委託して実施した。介護職に従事している人がほとんどと聞くと、実態はどうか。

町 介護職に従事している方が多いのは事実だが、29年度は高校生2人と一般が2人いて、合計11人が研修を受けヘルパー2級の資格を得た。

◆**介護認定** 介護認定をするさい、認定調査員の前では本人が日常よりしっかりしてしまい、結果として介護度が軽くなってしまうと、家族から戸惑いの声が聞かれる。家族の意見を反映させた審査であってほしいと思うが。

町 本人からも家族からもしっかりと状況を聞いて認定している。日常とのずれについても、特記事項に記して家族の意見を考慮している。



◆**寄付金** 毎年多額の寄付をして下さる方がいてありがたいが、一部使ったもののこれまでほとんど基金に入れていた。寄付金については、その方の意向を聞いて目的をもって使う方が寄付した甲斐があると思うが。

町 寄付は今年も1億円いただいでいて、4年目になる。今年は釣り好きな本人の希望をきいて、漁業関係の予算にあてたいと考えている。

◆**フリージアの生産農家** 年々減っている生産農家。これまで議会で何度も要望してきたが、増やす対策はとっているのか。

町 対象となりそうな農家をお願いしているが、フリージア生産は経験が必要で簡単には習得できないといわれている。これからは努力はする。



編集後記

この一年を振り返ってみると、大きな変化がいくつかありました。

まず、国民健康保険が町から東京都に移管されたこと、介護保険が第7期計画に入ったこと、ふるさと村の焼失、歴史民俗資料館の一時移転などです。私たちの暮らしにどのような影響があるのか、観光や産業はどうなっていくのか、不安と期待をかかえながら新しい元号に。息切れしないように今年もがんばります。